



つなげて、深める 私の社会科指導

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子



○史料からまちづくりの歩みをよみとく

私は退職後20年、一貫して教育現場で子どもとかわってきました。学級経営補助が主で、教室に入れない子の別室での指導や、担任がお休みしたときの担任の代わりなど、いろいろなことをやってきました。その中で、ある年、4年生の社会科専科を仰せつかりました。

4年生の社会科では、従来「郷土の開発」と言われる単元がありました。この単元では昔の開発を取り上げるのですが、わが地域の多くの学校では「吉田新田」という、江戸時代中期の入海を干拓により田んぼにした、吉田勤兵衛の事例を取り上げてきました。今、そこは大会の市街地を形成していますが、田んぼがどのようにして市街地

になったかについては、学習内容ではありませんでした。子どもたちは、「ええっ。昔田んぼだったなんて信じられない」と驚いていましたが、その驚きに応える学習はなかったのです。

しかし今、教科書の単元名は『昔から今へと続くまちづくり』へと変わりました。市街地形成の時代も取り上げられるようになったのです。

授業ではさっそく、「田んぼでなくなったのはいつか」が問題となりました。私は、それがわかる資料（明治15年の鳥瞰図）を提示しました。

「あつ。吉田新田の海側半分くらいは家が立ち並んでいるね」「池があったはずなのに、全部陸地になっている。横浜という地名の起こりとなった砂嘴のところまで全部陸地になっているよ」子どもたちは口々に、海岸が埋め立てられたことや、都会化しつつある様子を指摘していきました。そして、砂嘴の外側の東京湾には波止場があること、アメリカ、イギリス、フランス、オランダ、ロシアの旗があることに気づきました。そう、吉田新田市街地のきっかけは、横浜開港だったのです。

そして鳥瞰図から、蒸気船が全て沖に停泊していることに気づきました。また、蒸気機関車が横浜駅（現在の桜

子どもと動き回れる。子どもと感覚がぴったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、長らく小学校の初任者指導に携わってきた。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のブログ」を執筆中。

木町駅）に到着していることにも気づきました。このように、学習は吉田新田から横浜港や周辺の市街地へと進んでいきました。

私は初期の横浜港について、若き日の浅野総一郎が、「なんと日本の港は能力が悪く遅れているのか」と嘆いていたという話を紹介しました。

子どもたちは鳥瞰図を見て考えます。そして、蒸気船の大きさに比べて波止場があまりに小さいこと、そのため直接港に着くことができず、はしけで運んでいるため、貿易品の積み下ろしに二度手間がかかってしまうことに気づきました。

続けて私は、総一郎は川崎、鶴見沖が遠浅であることから埋め立てを行い、そこに一大工業地帯を築き、港も整備したことを取り上げました。

そしてもう一つ、蒸気機関車が横浜駅に到着する直前、海に細長く伸びた陸地があり、そこに線路が敷かれていることに着目させました。子どもたちは、それが埋め立て地であることに気づきました。

私は高島嘉右衛門を紹介し、外国の技術者の協力も得ながら、日本初の鉄道を敷いたことを取り上げました。

○事象を「つなげる」授業で 授業を活性化する

これらの学習を進めるにあたり配慮したことは、吉田勘兵衛、浅野総一郎、高島嘉右衛門を取り上げる際に、時の流れに沿って並列的に取り上げるのではなく、相互に関連を持たせるということでした。それぞれの時代、年代は押さえながらも、共通して言えることをみていこうとしたのです。

それぞれの人物が活躍した時期や実績は違いますが、そこに流れる願い、苦勞など、つながるものがあるはず。授業ではそれを探しました。

吉田勘兵衛、浅野総一郎、高島嘉右衛門の3名は、いずれも横浜出身ではありません。勘兵衛は大阪京都の府境付近、浅野総一郎は富山県、高島嘉右衛門は江戸の銀座の出身です。当時、横浜で活躍した人の多くはそうでした。横浜はもともと開港で都市化した街で、それ以前はほとんど人がいなかったのだから当然かもしれません。また、新しい土地で功を成し、名をあげたい人が多かったのかもしれない。

この3名が互いにつながると私が思うのは、もし勘兵衛の干拓がなければ、横浜は入海と砂嘴があるだけで、もと

よりわずかな漁業と農業だけの土地でした。そんな所に江戸幕府が港を開こうとするはずもなく、横浜は寒村のまま。その後都市化したとしても、とても大都市とはならなかったはず。鉄道も、どこか別の都市とつながったかもしれませんが。横浜港には大きな波止場が作られていなかったため、埋め立てにより大きな船を止めることのできる港が建設され、工業地帯が形成されたのです。

このように、学習間につながりを持たせ、相互に関係づけながら授業を進めることで、思考力が養われ、学習もいきいきと進みます。

子どもたちの興味関心も増すというものでしょう。

